



議 会 だ よ り

高校生模擬議会一般質問は7ページより
要約して掲載しています。

平成28年8月 No. 161 ■発行 / 土幌町議会

■HPアドレス

<http://www.shinoro.jp/assembly/>

Contents

- 6月定例会
条例の制定・改正ほか……………2ページ
- 一般質問
児童虐待の防止対策について ほか3件……………4ページ
- 高校生模擬議会一般質問……………7ページ
- かけ橋 「この地域の価値と魅力を。この地域に住む人が楽しむ。
きっと人はそこに共感する。」

株式会社 at LOCAL

代表取締役 堀田 悠希さん……………10ページ

分かりやすい、開かれた議会を目指して

高校生模擬議会を開催

土幌高等学校3年生が参加

平成28年
第2回
定例会

契約金額合計 5億4,131万円

新「道の駅」工事請負契約を可決



第2回定例会（6月14日、一般質問）

第2回定例会が、6月7日から16日までの会期で開会。
7日は行政報告、教育行政報告、ほか5件の報告を行い、平成28年度補正予算3件を審議。（6月8日～13日は議案調査のため休会）
14日は、議員4名が4件の一般質問を行った。
15日は、条例案2件、一般議案3件、新「道の駅」工事請負契約の締結についての追加議案4件、意見書案4件、会議案1件を審議、全ての議件を原案どおり可決し、閉会した。



士幌町地域創造発信拠点
施設 新「道の駅」

平成29年4月の移転開業に向け、今年度に建設予定の地域創造発信拠点施設の工事請負契約（外構工事・建築主体・電気設備・機械設備）を原案どおり可決した。

【実施概要】

●所在地

士幌町字士幌西2線134番地

●敷地面積

21,910㎡（内国整備予定面積5,804㎡）

●構造

木造平屋（一部2階）
延べ床面積833㎡

●駐車台数

普通車148台、大型車11台、障がい者専用3台、EV充電器専用2台（急速充電器1機）、自動二輪車12台

【施設内部】

●木造を主体としたセンターホールを整備し、多くの人達が集い楽しめる広い休憩スペース・交流広場を設置する。
士幌の特産品をはじめ、十勝管内の食材を楽しむレストランを併設し、スイーツ・焼

きたてパンなどのテイクアウトコーナー・農畜産物等の地場産品販売コーナーなどを配置する。

●災害発生時の一時避難場所として被災者等の支援を行う防災拠点としても活用される。

【屋外スペース】

●広大な敷地内には各種野外イベントも開催できる広場、美しい景観を眺め得る散策など、多くの方が訪れ交流できる場を設ける。



国保税の条例改正

【国民健康保険税課税限度額の改正】

区分	現行	改正
医療分	52万円	54万円
後期高齢者支援金分	17万円	19万円
介護納付金分	16万円	16万円
合計	85万円	89万円

地方税法の改正に伴い、国民健康保険税の課税限度額を引き上げ、併せて5割軽減及び2割軽減の対象世帯の軽減措置の拡充を行う。

【国民健康保険税の軽減措置拡充】

	軽減基準	
	現行	改正
7割軽減	33万円以下	33万円以下
5割軽減	33万円+(26万円×(被保険者数+特定同一世帯所属者数))以下	33万円+(26.5万円×(被保険者数+特定同一世帯所属者数))以下
2割軽減	33万円+(47万円×(被保険者数+特定同一世帯所属者数))以下	33万円+(48万円×(被保険者数+特定同一世帯所属者数))以下

反対討論 清水 秀雄 議員
本条例案は、国民健康保険税の最高限度額を、現行の1世帯85万円から89万円に、4万円引き上げるものであり、27年度に引き続いて引き上げられる。

国保は適切な国庫負担なしには成り立たない医療保険であり、平成15年度における国保税の最高限度額は53万円であった。わずか10年余で36万円増となるもので、限度額引き上げは負担が重過ぎると言わざるを得なく、改正について反対する。

賛成討論 中村 貢 議員

国保は、安心して医療を受けられる目的でつくられた制度で保険税は、所得に応じて分担しあつたものです。

今回の改正は、高所得者層の負担増の一方で中間所得層の保険税負担に配慮し、社会情勢の変化に対応した所得再配分政策であり、また低所得者層の保険税軽減対象が拡大するもので、改正について賛成する。

※討論後の裁決で賛成9人、反対2人。賛成多数で原案とあり可決する。

各会計補正予算

- 一般会計、国民健康保険事業特別会計、国民健康保険病院事業会計の補正予算を可決。
- 主な補正内容は次のとおり
- 行政不服審査制度対応支援業務委託料 184万円
- 町有施設改修工事 411万円
- 妊産婦安心出産支援事業扶助費(50人分) 77万円

出産可能な産科医療機関までの距離が遠いことによる妊産婦さんの負担軽減を図るため、妊産婦健診と出産にかかる交通費の一部を助成(基準額953円×受診回数(16回まで))する。

- ▼定住雇用促進貸付住宅家賃補償事業助成金 60万円
- ▼酪農振興特別対策事業補助金 450万円
- ▼医療器具購入費 2,243万円

第2回定例会で審議された案件

報告	結果	賛・反
▼ 行政報告	結果	賛・反
▼ 教育行政報告	了承	
▼ 例月出納検査報告	了承	
▼ 平成27年度土幌町一般会計繰越明許費繰越計算書について	了承	
▼ 平成27年度土幌町簡易水道事業特別会計繰越明許費繰越計算書について	了承	
▼ 株式会社土幌町物産振興公社の経営状況の報告について	了承	
▼ 株式会社ペリオールの経営状況の報告について	了承	
▼ 条例の改正	結果	賛・反
▼ 土幌町国民健康保険税条例の一部を改正する条例	可決	9・2
▼ 土幌町介護保険条例の一部を改正する条例	可決	賛・反
▼ 一般議案・その他	結果	賛・反
▼ 北海道町村議会公務災害補償等組合規約の変更について	同意	全員賛成
▼ 北海道市町村総合事務組合規約の変更について	同意	全員賛成
▼ 北海道市町村職員退職手当組合規約の変更について	同意	全員賛成
▼ 工事請負契約の締結について(4件)	可決	全員賛成
▼ 議員派遣の件	可決	全員賛成
▼ 意見書	可決	全員賛成
▼ 地方財政の充実・拡充を求める意見書	可決	全員賛成
▼ 義務教育費国庫負担制度堅持・負担率1/2への復元、子どもの貧困解消など教育予算確保・拡充と就学保障の充実、「30人以下学級」の実現を目指す教職員定数改善に向けた意見書	可決	全員賛成
▼ 道教委「新たな高校教育に関する指針」の見直しとすべての子どもにゆたかな学びを保障する高校教育を求める意見書	可決	全員賛成
▼ 平成28年度北海道最低賃金改正等に関する意見書	可決	賛・反
▼ 平成28年度各会計補正予算	結果	賛・反
▼ 一般会計(第2号)	可決	全員賛成
▼ 国民健康保険事業特別会計(第1号)	可決	全員賛成
▼ 国民健康保険病院事業会計(第1号)	可決	全員賛成

町民の声を町政に・町政のここが聞きたい

一般質問に4名が登壇

- 大西 米明 議員 児童虐待の防止対策について
- 清水 秀雄 議員 子どもの貧困対策について
- 中村 貢 議員 教育の格差解消と支援について
- 秋間 紘一 議員 高齢者等緊急通報システム設置事業について

6月定例会では4人の議員が一般質問に登壇し、理事者の考えをたどりました。内容を要約してお知らせします。全文については議会ホームページに掲載(9月上旬予定)します。

虐待の現状と防止対策は

町民対象の研修会等を開く

【大西米明 議員】



質問

全国の児童相談所に児童虐待に関する相談対応件数は、24年連続で最多を更新している。本町にあつても平成26年に5件あり、深刻な少子化が進むのと反比例するかのよう、児童虐待が増加している。本町における児童虐待の現状と防止対策は。

小林町長答弁

本町における児童虐待に関する状況は、平成26年度には要保護児

必要時には関係機関を招集し支援策等を協議している。

質問

虐待と言われるものは、身体的、ネグレクト、性的、心理的の4種類に分類されている。虐待としつけの境目はどう判断するのか。

小林町長答弁

その行為が子どもに対して愛情を持って行っているのか、また、子ども側の視点から、その行為が子どもにどのような影響を与えているかによって判断される。

質問

今は、小さな町でもいろんな事が起きています。自ら命を絶つ、虐待によって命を絶つことと子どもたちの無限の可能性の芽を摘むような町にはしてほしくない。

小林町長答弁

虐待については、子育て支援対策を進めて

いるが、子どもの基本的な権利をどう擁護していくのか、さらには命に関わる問題と認識し、関係機関と連携しながら取り組んでいく。また、地域社会全体でしっかりと見ていける体制が重要であり、町民対象の研修会等を開き、地域全体で虐待をなくし、健やかに子どもを育てる地域社会を全力で作っていく。

要保護児童対策地域協議会とは、

児童虐待などで保護を要する児童、養育支援が必要な児童や保護者に対し、関係する複数の機関で援助を行うため、児童福祉法に定められている「子どもを守る地域ネットワーク」です。

貧困対策協議会を設け 検討すべき

検討する体制を作って対応

質問

平成25年6月に、子どもの貧困対策の推進に関する法律が成立し、子どもの貧困が解決すべき社会問題として認められたことを意味している。最新の厚労省の調査で、子どもの貧困率は16・3%、6人に1人が貧困と言われている。子どもの貧困は世帯全体の貧困であり、多面的な支援が必要だと考える。根本的には家庭の貧困状況か

ら抜け出す施策が必要になる。自治体として子どもの貧困対策についてどのように対応するのか。

小林町長答弁

子どもの貧困対策については、子育て支援をはじめ保健福祉課の各種助成策を行っている。法施行後は子育て支援として、妊産婦安心出産支援事業の送迎支援、産後1カ月健診は母親と1カ月児の健診助成、看護介護員養成修学資金貸付、日中一時支援事業の利用料は今年度より無料として行っている。いずれにしても子どもの貧困対策は国家レベルの重要な課題であり、町においても現状を把握し、国や道と連携した取り

親の貧困をいかに連鎖させないかが、子どもの貧困対策の取り組みだと思いい、国に対して制度的に求めていくことが重要な課題と認識している。役場内で横断的にプロジェクト的な子どもの貧困対策などについて検討する体制を作って行きたい。その中で課題や対策についても全体的に検証し、新たに取り組むものについて新年度予算に向けて対策を行う。

【清水秀雄 議員】



組むが必要と認識している。

質問

家庭の貧困を根本的に解決しないかぎり、子どもたちも貧困から抜け出せない。この貧困の連鎖を断つこと、これは多面的な支援が必要だ。自治体として貧困対策協議会ともいべき組織を作り、横断的に検討を進めることが必要ではないか。

小林町長答弁

親の貧困をいかに連鎖させないかが、子どもの貧困対策の取り組みだと思いい、国に対して制度的に求めていくことが重要な課題と認識している。役場内で横断的にプロジェクト的な子どもの貧困対策などについて検討する体制を作って行きたい。その中で課題や対策についても全体的に検証し、新たに取り組むものについて新年度予算に向けて対策を行う。

給付型の奨励金制度を

関係課と連携しつつ協議を行う

質問

教育に関する家計の負担は非常に大きく、本町においても子どもの貧困解消に向け各種の施策を実施しているが支援の状況は、

堀江教育長答弁

子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されるのではないよう、また、貧困が世代を超えて連鎖することがないよう関係部局と連携して施策を推進する必要がある。

質問

昨年度から町長と教育委員会と構成する総合教育会議において十分協議している。

支援については、小学校から大学に至るまでの各種料金等の減免、就学援助、就学資金貸付等の施策を行っている。

質問

本町においては、職業科の高校しかなく、多くは町外の高校に進学する。そのため、通学のための交通費や下宿代が家計を圧迫しているが、高校生を持つ家庭への支援策は、

保健福祉課長答弁

高等学校等就学支援金給付要綱を制定している。本年度から5万円から10万円に改正した。ただし、所得制限

質問

現在の奨励金は、ほとんどが貸与型しかなく卒業後の返済が大きくな負担になっている。土幌高校においては条件を満たせば貸与金相当額の助成制度がある。町外の高校に進学した場合であっても卒業後に町内で就職等をした場合の貸付制度や給付型奨励金制度を検討すべきと思うが。

小林町長答弁

土幌高校以外では、町内で不足職種の医師、看護師、介護士については奨励金制度を設けている。国では、給付型奨励金の議論が始まったところであり、財政的なこともあるので国の制度を見ながら町としても検討を行う。

【中村 貢 議員】



高齢者緊急通報システムを 75歳以上から65歳以上へ

新年度から実施するよう検討する

【秋間紘一 議員】



質問

本町の高齢者緊急通報システムは、おおむね75歳以上の一人暮らし、虚弱高齢者や高齢者のみで構成され、緊急時に適切な対応が困難な世帯に緊急事態連絡用に据え置き型、ペダント型を設置している。対象年齢をおおむね75歳以上と定めているが、一見元気な高齢者であっても、緊急通報システムがいつ何時必要となるかわからないこともあり得るこ

とから、対象年齢を介護保険制度の1号被保険者が65歳以上となっているので、それに合わせて65歳まで引き下げてはどうか。

小林町長答弁

設置要綱において、①おおむね75歳以上の一人暮らしであり、要介護認定を受けている世帯、②おおむね75歳以上の老人のみで構成する世帯であり、緊急時に適切な対応を行うと認められる世帯、③特に必要と認める世帯となっている。

対象者への案内はケアマネージャーや障害の相談員を通して個別に行っているため、年齢にとらわれることなく75歳以下の方も利用している現状にある。運用面での実態が65歳

以上であることから、介護保険等の制度面の整合性も考慮に入れながら検討する。

質問

利用者ニーズの多様化に伴い、屋内外、外出先で緊急通報サービスが受けられる携帯電話型GPS機能付きシステムを導入し、貸付してはどうか。帯広市では26年に導入して一命をとりとめたという事例もある。

住民が求めている福祉とは、そのニーズに整合した対応や支援策であり、高齢者等が安心して生活が送れるよう広域的な取り組みも視野に入れて早急に検討を。

小林町長答弁

担当から利用面でのいろいろな課題もあると聞いているが、それらを調査しながら今後検討する。

秩父別町議会議員が視察

7月14日、空知管内の秩父別町議会総務経常任委員会（議員9名、事務局1名）が行政視察で来町された。一行は、道の補助を受け、昨年度整備が完了した街路灯のLED化事業による省エネルギー化と地球温暖化防止対策について建設課担当者より説明を受け、意見交換では事業規模や費用対効果などについて相互に意見を交わした。



第4回臨時会

7月12日

◎全会一致で可決。

■物品購入契約の締結について

■一般会計補正予算（第3号）

歳入歳出総額にそれぞれ18億5,640万4千円を追加し、総額91億4,970万8千円とする。主な補正内容は次のとおり。

●臨時福祉給付金

390万円

●産地パワーアップ事業補助金

18億5,000万円

北海道町村議会 議員研修会に参加



全道から多くの議員が参加した研修会

7月5日、札幌コンベンションセンターにおいて、全道町村議会議員を対象とした研修会が開催され、本町からも議員が参加。

研修会では、講師の高野成鮮氏（立正大学客員教授）、長谷川幸洋氏（東京新聞・中日新聞論説副主幹）が地方創生等について講演され、参加した議員は、今後の自治体議会のあり方について研鑽を深めた。

士幌の未来を考える

高校生模擬議会一般質問

議会では、「より町民にわかりやすい、開かれた議会」を目指し、その一環として未来を担う子どもたちの意見・要望などを把握し、また、士幌町の町づくりや行政の仕組み、役割について理解を深め、選挙年齢の引き下げへの対応として高校生模擬議会(一般質問)を開催しました。

生徒たちは、町議会の模擬体験を通じて、自分たちの生活と行政との関わりや、士幌町が直面する様々な課題について考え、自らの言葉で町長らと質疑応答を行うことにより、議会制民主主義、地方自治の仕組みを学び、士幌町の未来に向けた町づくりへの理解を深めました。

生活環境の改善について



た だ み く 議員
多田 光玖

質問

私の住んでいる佐倉地区では街灯が少なく、夜の外出がとて怖いです。もつ少し街灯をふやしてもらえませんか。

小林町長答弁

佐倉地区の街灯は、全部で23基、町全体では1,023基の街灯が設置されています。市街地に集中し、郊外地には行き届いていない現状です。主な要因は年間の維持管理が700万円程度かかり、また、新たに設置した場合1基当たり60万円ほどの金額が掛かるため、厳しい財政の中で人口が集中している場所が先行されています。

しかしながら、安全な地域づくり、環境への配慮はまちづくりの重要なテーマであり、

郊外地であっても学校、保育所、公民館など公共施設の周辺、子どもたちの通学路など重要度の高い場所から順次設置をするよう検討します。

給食について



ひらの かと 議員
平野 楓

質問

管内の高校で給食を取り入れているところが数校あると新聞に出ていました。本校は、帯広や音更から登校する生徒が多く、朝早くお弁当をつくる保護者の負担は大きく学校給食を取り入れることはできないでしょうか。町立高校なので他校よりは取り入れやすいと思いますか。

堀江教育長答弁

十勝管内の高校で数校が学校給食を開始したようですが、いずれも小中学校に加えて、

高校や保育所などの調理食数を見込んで、学校給食共同調理場を近年新築した町が実施しています。

現在の施設は、小中学校に学校給食を供給するために設置されたもので、施設設備の能力は1日約700食であり、現在小中学校7校に供給するために、1日約660食の調理を行っている現状であり、高校に学校給食を供給する能力がなく現状では困難です。現有の学校給食センターは昭和63年に建設され27年が経過していますが耐用年数は超えています。将来、施設設備の老朽化が進み、改築する際には、小中学校だけでなく、高校や保育所などを含めた調理食数で施設設備の検討をしなければならぬと考えています。

なお、帯広、音更方面から通学する生徒も多いため、保護者や生徒が、早朝からお弁当を作らなければならないことは大変なことだと思っています。ですので、給食用弁当や仕出し弁当などを供給することができる業者の調査を行って、

今後検討します。

バス通学について



やまうち かな 議員
山内 佳奈

質問

現在、全校生徒のほとんどがバスを利用しています。町から大変多くのご支援をいただいでいて本当にありがたいと改めて感じています。ただ、部活動などでは、放課後に残ることのできる人数が限られてしまうため、活動したくてもできない環境があります。そこで、部活動バスの便数をふやすことはできないのでしょうか。

堀江教育長答弁

高校通学生徒の保護者による自主運営通学バスは、平成16年4月から運行がスタートしました。運行当時は1路線のみでしたが、現在は5路線

となり8割以上の生徒が利用し、通学時間の短縮やバス代の軽減も図られております。さらに平成22年から、どこから乗車しても一律年間10万円で乗車できるようにバスの運行に対して支援をしています。

平成24年のツアーバス事故を受け、国は貸し切りバスの新運賃制度を定め、バスの運行価格が大幅に値上がりとなり、今年度の自主バス運行委託料は年間5,694万円の見込みで、町の支援額も4,314万円を予算計上しています。

部活動の増便運行については、現在2路線の運行で、定員75名が上限となっております。この運行では生徒の皆さんの活動に支障をきたすことも少なくないと認識はしていますが、本町の財政事情も年々厳しさを増していますが、高校運営に係る予算の見直しを行い、増便できるかどうか今後検討します。

町内の就職先について



やまべ ひかり 議員
山部 緋将

質問

土幌高校には町外から通う学生が多い状況です。3年間通学している間に土幌町に愛着を持つ生徒もいます。できれば卒業後もこのまま土幌町内で働きたいと思っている人もいますが、企業などが少ないと聞いており、大変残念に思っています。もっと町内で土幌高校の生徒を雇ってくれる企業などが多くならないのでしょうか。

小林町長答弁

本年4月の町内での主な事業所における高卒者採用は9事業所で20名でありましたが、そのうち土幌高校を卒業した生徒は5名となっております。本町では、昨年策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦

略」において、地域産業の活性化により、多様な雇用を創出することを基本目標に掲げ、事業所や企業の誘致、6次産業化の支援によって新たな働く場の創出に努めます。

生徒の皆さんには、土幌高校の特色である農業実習や食品加工に加え、志プロジェクトを通じ、ものづくりができる人材、地域の産業担い手として成長されることを期待しています。

道の駅と防災について



なかばやし みく 議員
中鉢 みる

質問

近年、道の駅が避難所や災害復旧拠点などとして活用され、災害時の活用についても注目されています。土幌町の道の駅が新しくなりますが、災害対策として道の駅にどの

ような役割を担わせるのでしょうか。

小林町長答弁

土幌町の新「道の駅」も、救助基地としての機能をはじめ、食料等の備蓄及び配給、被災情報発信など防災拠点として、道路機能の向上に資するべく整備計画を行っております。特に近年は異常気象による大雨暴風雪等により被害が増加する中、道の駅が防災に果たす役割はますます重要となっております。発信や交流とあわせ、安全を視点として「道の駅」づくりを目指します。

志プロジェクトと熊本地震の支援について



わたべ なほと つばさ 議員
渡邊 翼

質問

本校では志プロジェクトを展開していますが、これは熊本県阿蘇市が然ブランドとし

て展開している事業を手本にし、情報提供などを受けて推進しています。そのため、被災地である阿蘇市に行き、本物の然ブランドと交流したいと考えています。土幌町を代表して支援、交流することはできませんか。

堀江教育長答弁

熊本地震は4月14日以降に相次いで発生し、震度7を2回観測。5月13日現在で死者49名、関連死疑い19名、安否不明者1名を出し、1万人以上が避難所暮らしを余儀なくされています。

熊本県内ではいまだ被災前の日常生活を過ごすことができているとも報道されており、生徒の安全が確保され授業や部活動をはじめ、農業クラブ活動に支障をきたさないか、また、現地の最新情報やニーズを確認することが重要であり、被災地、被災者に迷惑がかからないような準備が必要であると考えています。今後現地の調査を行うとともに、学校長と協議を行いながら検討します。

高校生と市民の交流について



うきみふうか 議員 宇佐見風香

質問

活動の中で、「又プカの雪解け」という商品を製造していますが、市民の方と一緒に製造したいと思います。新しい道の駅での販売が決まっているようですが、高校だけでは製造が追いつきません。高校生が市民の方に技術を伝え、地域と協力することで土幌町のPRにつながると思います。

堀江教育長答弁

授業は製造だけではなく、農産物栽培や家畜飼育学習、加工製造など、文部科学省が定めるカリキュラムの授業時間数確保のため、十分な製造時間が確保できないことは理解しています。また、食品加工研修センターは、今年度も高校生の実習、小中学生を対象

とした食の体験学習「大地君と学ぼう」、市民の食品加工研修など、ほぼフル稼働の状況です。しかし、今年度から国の「地方創生加速化交付金」を活用した「町立農業高校における農業先端技術とマーケティング学習による魅力の向上と町の波及促進事業」において、農業高校と6次産業化に意向のある農家や関係団体との研究会の設置、企業と連携した商品開発と販売・マーケティング学習などが展開される予定であり、新たな取り組みを期待しています。

道の駅とつなげた校舎移転は



たちもと いちか 議員 滝本 加

質問

本校の校舎は40年以上経過し、数年前には新しい校舎に建て替える必要が出てくると

思われます。このまま新田地域で新しい校舎とするのか、あるいは土幌町の中心部に移転するのか、町としての考えをお聞かせします。

また、移転するのであれば、新しい道の駅とつなげる形で作ることはできないでしょうか。全国でも、道の駅と高校がつながっているところはないと思います。道の駅直結の高校として、高校の生産物などを道の駅で即売をする、あるいは高校生レストランなどを開業するという考えはいかがでしょうか。もし、移転するのであれば、現在の校舎や農場は残して、第2農場として私たちの実習などで使うこともできると思います。

小林町長答弁

現在の校舎は、昭和50年に竣工し、平成63年に防音工事を実施、平成23年には耐震改修工事を実施して現在に至っており、学校をはじめとする公共施設の長寿命化を進めています。よって、移転等については、現時点では具体的な検討をいたしません。今後の土幌高校のあり方について

検討を行う「魅力ある土幌高等学校づくり検討委員会」を組織したところであり、この中で議論していきます。

また、道の駅と隣接する場所に新校舎を開設すること、現校舎を第2農場として活用するとの提案は大変ユニークな発想であり、今後の議論において参考にさせていただきます。

新「道の駅」においては、運営者との協議が必要であり、ますが、レストランメニューの共同開発や高校製品の販売実習、新商品のテスト販売などを通して、土幌高校と土幌の食のすばらしさを全国に発信し、さまざまな実習を通して社会に旅立つための足がかりとなるよう、新「道の駅」が第2の学び場となるよう取り組んでいきます。

この地域の価値と魅力を。 この地域に住む人が楽しむ。 きっと人はそこに共感する。

新「道の駅」軽食・飲食出店事業者

株式会社 at LOCAL 代表取締役 **ほっ 堀 た 田 ゆ 悠 き 希 さん**



4年前、土幌町の農家に嫁ぎました。右も左も農業の現場について全く知識がない。知識がない分、余計に農業について大きな希望を感じた一年目。

しかし、最初は体力的にも、住む環境が変わったことも、辛い。この仕事は一生続けられないかも…とも思いました。それでも、限られた環境の中、いかに自分の強みを活かし、生きがいにしていくかを本気で考えました。

別販売事業のスタートです。札幌・首都圏へ何度も足を運び、商談。現在は農場の売上の10%に迫り、義両親にも応援してもらえる環境となりました。ようやく「農家のお嫁さん」から新しい形の「農家」になれた気がしています。

さて、この度、来春オープンを迎える、新「道の駅」の飲食事業者に選定していただきました。この地域に住んで知った土幌町の魅力。それは、住民がこの地域の面白みを創り続けていることだと感じています。

地区慰安では、年に一回地域住民が会館に集い、しほろ牛を囲み、青年部が様々な料理を振舞い、余興に、ゲーム、土幌高校の加工品の販売、会場は大盛り上がり。7000人のまつりは、町民の実行委員が主体となり、どうやったら老若男女が集い、楽しんでもらえるかを考え尽くしたお祭り。多くの町民が集まり、それに共感する町外のお客さんも多い。私はここに「土幌

らしさ」を感じています。地域の絆を大切にし、一生懸命仕事に向き合い、一生懸命地域で楽しいことを考える。道の駅の運営についてもこの「土幌らしさ」を取り入れていきたいです。

誰のための道の駅か。それは、観光客のためではなく土幌町民のための駅でなくてはなりません。商工会と連携し、地元民しか知らない美味しいものがレストランに並び、来町してくれた方を商店街へ誘導したり、農家の家庭菜園の野菜たちが、おすそ分け野菜市としてお客さんに楽しんでもらったり、地元ミュージシャンや作家さんが表現する場だったり。土幌高校の加工品が並んだ

り、生徒たちがインターンシップで職場体験したり。町民に必要とされる道の駅だからこそ、観光客が共感する。これからのローカルビジネスの本質だと思っています。これから皆さんのお力を借りて、土幌町の今ある価値を発信し、町づくりに尽力していきたいと思っております。

i 広報紙

議会だよりをあなたのスマホにお届け
「i 広報紙」導入しました

★「i 広報紙」のダウンロード方法★

1. 下記のQRコードを読み込んでいただくか、AppStore か Google Play でアプリを検索します。
2. アプリをインストールし、簡単な個人設定を行うと使用開始になります。「お住まいの地域」で郵便番号などから「北海道土幌町」を登録すると、発行日に「議会だより」が届きます。



App Store
からダウンロード





ANDROID APP ON
Google play



■平成28年8月12日発行

■土幌町議会

☎0800112000

北海道河東郡土幌町字土幌225番地
電話01564(5)5218

■広報特別委員会

委員長 出村 寛
副委員長 大西米明
委員 清水秀雄

委員 細井文次
委員 河口和吉